



第3回「新しい暮らし方」を考えるWT

テーマ：働く場等のコミュニティから広がるつながりの多様な事例共有

ご参加団体

- ・一般社団法人北の近江マザーレイク共創会議
- ・特定非営利活動法人おおたき里づくりネットワーク
- ・暮らシフト研究所
- ・淡海ネットワークセンター

<滋賀県>

- ・環境政策課
- ・健康しが推進課
- ・県民活動生活課



―意見交換まとめ―

どのようなコミュニティにどのような理由で参加しているか？

- 環境活動・街づくり団体
⇒ 大学時代の琵琶湖の環境活動がきっかけで、社会貢献や地域課題解決に関わりながら、自分の得意分野で貢献し、人とのつながりから新たな活動を広げることも楽しんでいる。
- 大学・研究関連、地域活動団体
⇒ 大学のゼミや地域のワークショップに参加。活動している人々の知識や熱意に触れ、憧れや興味が広がった。新しい知識や経験を得ること、人とのつながりを通して自分の興味の幅を広げることが楽しい。
- メディア・情報発信、地域コミュニティ
⇒ 地元のタウン誌にライターとして参加。元々はタウン誌のファンの一人だったが、参加してからは文章を書く楽しさや、地域の情報・文化を記録・発信する使命感を感じている。
自治会やPTA、消防団の活動に参加してきたが、興味というよりは使命感があり、生きていくために当たり前のものだと感じている。半ば義務感での参加だが、その中で新たな関係性を見出し、地域での自分の「務め」を果たすことが重要。
- 女性活動コミュニティ
⇒ 自分の住むまちに貢献したい想いで参加。自分の住むまちを意識するようになり、仲間たちと一緒にこのまちを盛り上げたいと思うようになった。次世代の女性を応援することで自身の「役割」を見つけられたと感じている。
- 環境保全活動団体（環境政策課から、びわ湖の日の清掃活動等に関わる方々の参加理由について情報提供）
⇒ 環境保全に繋がる活動をしたという思いから、そのような目的を持つコミュニティに参加される方が多い。
びわ湖の日の清掃活動に参加することで、琵琶湖や地域の環境活動を再認識する機会になっている。

多様な暮らし方につながる理想的な“働く場”とは？

- 仕事に意義や貢献を感じられる環境。成果や誰かの笑顔につながる実感がある場。
- 人とのつながりや承認があり、管理職や同僚の声かけ・感謝・雑談などで「誰かが見ていてくれる」安心感が得られる場。
- 働き方や働く時間を柔軟に選べることで、生活や価値観に合った働き方ができる。
- 心身の余裕を保ち、健康や家庭・地域活動の充実を支える環境。
- 職場外の活動と両立でき、子ども連れ参加や外部コミュニティでの学びを仕事に活かせる場。

仕事で得た学びを仕事以外のコミュニティでどう活かしているか？

また、仕事以外のコミュニティでの学びを暮らしの中でどう活かしているか？

- 仕事とコミュニティ活動を区切らず、「生活の一部」として取り組んでいる。
- 人とのつながりを軸に、職場や地域での関係を通じて学びを得ており、別の場面でも活かされている。
- 良い経験・失敗の経験も次につながる大切な資源であり、すべての経験はこれから起こることに活かせると思っている。
- 地域や家庭での経験が、公務員としての仕事を進めるための参考になっており、地域と行政の橋渡しをする場面もあった。
- 興味・意義・役割意識が行動の原動力となり、仕事やコミュニティで自然に表れている。

今回の意見交換では、働く場を含め参加するコミュニティから生まれる多様なつながりが、新しい暮らし方を形づくる大きな力になることが改めて確認できました。

今後も一人ひとりの想いと経験をつなげ、滋賀県から広がる豊かな暮らしの輪を育んでいきます。